

安全で楽しい
食事をするために

食事指導ガイドブック



茨城県教育委員会

<http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/index.html>

発刊にあたって

茨城県教育委員会では、平成 25 年度から特別支援学校機能強化事業（文部科学省委託）の一環として、食べる機能に障害のある児童生徒等への支援を充実するため、県内の特別支援学校 16 校において、歯科医師や歯科衛生士等の外部人材を活用した実践研究に取り組むとともに、地域の幼稚園や小・中学校等の教員や保護者への相談支援も行ってまいりました。

摂食・嚥下機能に障害のある児童生徒等が、安全で楽しく食事をするためには、学校と家庭とが連携し、専門家のアドバイス等も十分に参考にしながら、障害の特性や発達段階等に応じた適切な指導や必要な支援を行っていくことが重要となります。

そのため各学校では、外部人材を活用しながら、摂食・嚥下機能についての正しい理解や児童生徒等の的確な実態把握、自立活動との関連を図った食事指導の在り方等に関する実践研究を重ねてまいりました。

本ガイドブックは、本事業の成果として発刊いたしました。特別支援学校だけではなく、広く小・中学校等の教員や保護者、医療・福祉関係の方々にとっても、参考となる内容であり、安全で適切な食事指導のためにご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本ガイドブックの作成に多大なご尽力をいただきました作成委員の皆様に深く感謝申し上げます。

平成 26 年 1 月

茨城県教育委員会教育長
小 野 寺 俊

『食事指導ガイドブック』

～安全で楽しい食事をするために～

目 次

第1章 食べる機能の発達と障害

1 食べる機能のしくみ	1
2 食べる機能(摂食・嚥下)のメカニズム	5
3 食べる機能の発達と食形態	7
4 食べる機能の障害	22
5 食べる機能の障害を引き起こす原因となる疾患等	26
6 個々の教育的ニーズに応じた支援や配慮	30
7 摂食機能療法の実際	35

第2章 個に応じた食事指導を進めるために

1 給食の時間における指導のポイント	41
2 個々の教育的ニーズに基づく指導	45
3 自立活動との関連を図った食事指導	48

第3章 個に応じた食事指導の実際

【事例A】顔のストレッチなどを取り入れて咀嚼力を高めた事例	53
【事例B】あごの介助により、食事中に舌を出す回数を減らす事例	55
【事例C】口を閉じて食べる意識を高めた事例	57
【事例D】遊びを取り入れて、手の巧緻性を高めた事例	59
【事例E】姿勢の改善とかむ力を高めた事例	61
【事例F】環境を整えることで食事中に落ち着いてきた事例	63
【事例G】歯や歯ぐきのブラッシングにより、上唇の過敏が改善されてきた事例	65
【事例H】食べやすい環境を整えることで、姿勢の改善が見られた事例	67
【発 展】『食事に関する個別の指導計画』の活用	69

第4章 安全に食事指導を進めるために

1 食べ物などによる窒息時の対応	73
2 食物アレルギーへの対応	78
3 緊急時の校内体制	82

参考文献	87
『食事指導ガイドブック』作成委員会委員等	88